



園児がレタス収穫体験

5/11 真々部地区景観づくりの取り組み

たつみ認定こども園の園児約30人が真々部地区県道沿いの畑で栽培されたレタスの収穫体験を行いました。

このレタスは、地域の住民が市と景観づくり住民協定を結び、沿道の緑化・美化を目的として毎年育てているものです。会長の竹内基明さんは、園児が楽しそうに収穫の様子を見て「これからもぜひ続けていきたい」と話していました。



写真撮影のコツ学ぶ

5/6 市観光協会主催写真講座

写真で安曇野の魅力発信につなげようと市観光協会主催による写真講座がビレッジ安曇野で開かれました。写真家で市内在住の佐藤大史さんが、光の位置による印象の違いや、構図などを受講者に分かりやすく解説しました。参加者の細野郁子さん（穂高有明）は「実際に撮影しながらアドバイスをいただけたのでとても勉強になった」と話してくれました。

市ではInstagramによるフォトコンテストを開催中で、応募用タグを付ければどなたでも参加することができます。（詳しくは市のホームページをご覧ください）

安曇野の古代ロマン解明へ

5/8 明科廃寺第5次発掘調査

7世紀後半に創建され、平安時代に廃絶したと考えられる明科廃寺の発掘調査で大量の瓦片が出土しました。5月8日から始まった調査では、数百点に及ぶ多様な瓦片や、瓦塔などが見つかり、中でも「細素弁十二葉蓮華文」と呼ばれる軒丸瓦の瓦当が、初めてほぼ完全な形で発掘されました。

現在のJR明科駅西側にあったとされる明科廃寺は、これまで4次にわたる調査が行われ、県内最古の寺院の存在を示す礎敷きや建物跡は見ついているものの、その全容は謎に包まれてきました。今回の調査で当時としては珍しい全面瓦ぶき屋根の建物が明科に存在した可能性が高まりました。発掘現場を初めて見た佐藤真弓さんは「出土したばかりの大量の遺物を目にするのができて感激しました。まさに古代のロマンですね」と語りました。

発掘調査は6月初旬で終了し、今後出土した遺物等の整理作業を行います。さらなる安曇野の古代が解明されるのではと期待が高まっています。



知ること 壁を壊して

6/8 三郷小で「スポーツ義足体験授業」

スポーツ用義足を体験する授業が、三郷小学校で開かれました。

講師を務めたのは、短距離走で東京パラリンピックの出場を目指す法政大学3年の山下千絵さん（20）。5年生60人に、通常の義足とスポーツ用義足の仕組みを説明したり、実際に走る姿を見せたりしました。その後、子どもたちは、専用の義足を付けて歩行や跳躍をし、障がい者アスリートの感覚を体験しました。

山下さんは、「子どもたちは好奇心旺盛。義足を知り体験することで、障がい者と健常者にある壁を壊してほしい」と願いを話しました。

この授業は、2020年の東京五輪・パラリンピックのスポンサーである株式会社LIXIL（リクシル）が多様性を尊重する社会の実現を目指し開催しているもので、安曇野市がオーストリアカヌーチームのホストタウンに登録されていることがきっかけで実現しました。



小学生3位! 一般入賞!

4/28 長野県市町村対抗駅伝大会

第28回長野県市町村対抗駅伝競走大会および第14回長野県市町村対抗小学生駅伝競走大会が信州スカイパーク陸上競技場周辺で行われ、県内の全56チーム（小学生は全63チーム）が出場しました。安曇野市は、一般の部で8位入賞、小学生の部で過去最高順位タイの3位に入賞しました。

小学生チームの鳥羽一彦監督は「精一杯練習した成果を一人ひとりが十分に発揮してくれました。200%の出来。」と入賞の喜びを語りました。



田んぼを園児にプレゼント

5/21 市農業再生協議会 食農教育事業 2018

市や生産者などで構成する市農業再生協議会（板花守夫会長）は、食と農に触れてもらおうと、市内の園児がオーナーとなる水田をプレゼントしました。当日は市内の園児を代表して、北穂高認定こども園の園児40人が参加。水田の前に設置された看板の除幕を行った後、田植え作業を見学し、「これがお米になるの?」など興奮した様子で見学しました。

10月上旬に収穫予定の長野県オリジナル米「風さやか」は、市内19の認定こども園と幼稚園の給食で提供されます。